



TITLE:

北米合衆國に於ける地理學界(二)

AUTHOR(S):

寺田, 貞次

CITATION:

寺田, 貞次. 北米合衆國に於ける地理學界(二). 地球 1927, 8(3): 209-215

ISSUE DATE:

1927-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183322>

RIGHT:

此の平衡關係は地中海式岩石を大西洋式岩石とを結合する連鎖として特に重要なものである。

b 曲線—白榴石、橄欖石、加里長石及び黑雲母。

此の種の平衡は太平洋式岩石と地中海式岩石との推移を示すものである。

c 曲線—黒柘榴石の成生曲線。

d 曲線—輝石分子内に於けるアルカリ硫酸鹽、鐵鐵鹽、橄欖石分子間の關係を示す。

北米合衆國に於ける地理學界 (二)

寺 田 貞 次

前述せる諸般の事項は圖上に一目瞭然と記載し得るものにして實に此の圖は幾多の自然現象を連結統一し火成岩成生に關與する法則を論ずるに當りて有力なる根柢をなすものである。

終りに臨み岩漿内部に於ける均一平衡の研究に對して此の研究論文が何等かの刺戟ともならば本懐措く能はざるところである。(完)

東北帝國大學理學部岩石礦物礦床學教室にて 山内正雄譯

◎

斯く、亞米利加に於きましては、地質の研究が發達致すと共に、米大陸の地極から、氷河時代に於ける土地の變遷、地産の調査が完全になる許でなく、引ては地形の研究にも及び地形學も著しく發達する様になつた、周知の如く、北米大陸は、地構の關係上、色々の地形が、能く發達して居る處であります、自分共單に事竊から眺めましただけでも、其の變化の多様なのに、驚かざるを得ない程でありました、即ち、大陸の東部、紐育附近は、氷河の影響を受けた處であり、紐育市の北郊プロシクスパークから、夫の動物園の處には、立派

な氷河の遺跡を目撃する事が出来、ナイヤガラ邊の地形の變化に申す迄もなく、中部シカゴ邊から、サンタフェ鐵道で下りますと、廣漠たる所謂プレーリーの景色を眺める事も出来、是が段々と砂漠の姿と變じ、水蝕作用の好標本たるグランドキャニオンの雄大なる景色となり、石灰岩地層があるかと思ふと、赤色のサンドストーン層があり、さては孤立又は成層の火山地形をも眺め、ラバーの轉がつて居るのを目撃する事が出来、一朝ロツキリーの山地を越えて、太平洋側に出ると氣候頓に一變、其の溫暖なる果樹園の美しい景色に驚かされる、其の變化の多種多様な、人跡稀なる沙漠たる旅行の中に

非常の興味を吾人に與へました、こう云ふ風に各種の地形が能く發達して居るので、自然と此等研究を誘ひ、有名な地形學者を出すに至つたのであります。

ハーバート大學の教授であつた、デービス William Morris Davis 氏は即ち夫で氏は夫の地形學を大成した獨逸のメンク教授と比肩する、斯學の大家で、獨逸でも交換教授として氏を伯林大學に聘した事があり、メンク教授の如きも其の講義中に、屢々デービス教授を引用されて居り、現伯林大學のリュール A. Rühl 教授は氏の著を譯し、Die Erklärung der Beschreibung der Landformen と云ふ名稱で、一九一二年に、ライプツヒ及び伯林の B. G. Teubner 書肆から出版して居り、流石の獨逸でも斯學の權威として、尊敬をばらつて居る、遺憾ながら、既に老を養ふて退隱されて居る由、リュール教授より聞いて來たが、ハンチングトン氏に依ると、現今何ボストン御在仕の由で、其の紹介をもして下したから、訪問して見た、ハーバート大學の西方、數町河岸に近き、極く閑靜な處で木造の質粗な建物が教授の御宅であつた、ベルをならして見たが、一向人氣がない、何處ならしても誰も出て來ない、通りがりの郵便配達夫に聞く、教授は近頃轉宿、今は大學東手の Quinery street なる Colonial Club に居られると云ふ事であつた、先年巴里郊外にプリュールン教授を訪れた時の様な感じがした、急いで行つて見る、此處も木造の風雅な建物で、一種の合宿所風のものらしい。

(第一圖) デービス教授の宅



教授は確に此處に居られる事はわかつたけれども、折悪しくテキサス方面御旅行中との事であつて、拜眉の榮を得なかつたのは遺憾であるが、夫にしても老いて益健康に、近く發表の運に到ると聞て居る珊瑚礁の研究の爲めでもあらう。遙々出かけられる熱心には、少からず感服した。

◎

此の地形學の大成は、やがて地理學に入る道程で、恰も獨逸で、夫のリヒトホルヘン教授の後を受けてメンク教授が地形學から入て、地理を研究されて居る如く、デービス教授の研究は、米國地理學の基礎となつた様で、各大學地學教室の様子を觀ると、其の形跡からうかゞはれる、こう云ふ風に米國で

は、其の眼前の必要は、先づ地質研究の發達を促し現今漸く地理研究の時代に迄到達した狀態で、歐洲諸國を視察した際には何處に行て見ても、地學教室が完備、研究の盛なのに、唯羨望の他なかつたが米國に來て見ると、意外にも地學の設置されて無い處が多く、從て研究室の如きも、微々たるものであるのには、少なからず驚いた、之は米國の地學が日尙淺く、一學科として設置の必要を認める迄に、進んで居ない事を證明するもので、歐洲各國に比すれば、未だ不完全なものと云はなければならぬ、試に余の視察した各大學の様子を記せば、之れを御察し下さる事が出来ませう。

・ ロンビオ大學。最初地質學教室内に在る Phyeography 研究室を訪ねる、教授 D. Johnson 氏が居られ、小生の爲めラッセル・スミス Russel Smith 教授に紹介して下さい。

スミス氏は、夫の Industrial and Commercial Geography の著者で、現今米國に於ける有数の經濟地理の大家であるので、是非面會を希望して居たから、ジョンソン教授の厚意を謝し、早速行て見る、スミス教授の居るのば、圖書館の東南に近く位せる、數階の細長い建物即ち School of Business で、地理は其の一學科として、置かれて居るのである事を知つた、階下が事務室、階上が各學科の研究室又は教室である、玄關正面のリフトで登る、六階の六一七・六一九並に六二一號の三室が地學に充てられて居る、其の一室六二一號は、廊下の突當に位し、地理の講義室、他は其の傍に並び教

授室である、六一七號はスミス教授の室、次の六一九號は、G. T. Renner 並に L. A. Wolfinger 兩教授の室であるけれども小室の室内で、各室共僅かに教授用參考書、並に授業用掛圖等を準備せるのみで、研究室と申す程のものでない、講義室も約五十名收容し得る小室で、黒板地圖掛の他、何等特別の裝置を有して居ない、英佛獨で完備した研究室を觀た眼には頗る物足らぬ感がした、折悪しく、スミス教授は御不在室の戸に

No 617 T. Russell Smith

Office Hours

Wednesday 11—12 at 6⁰⁰

Thursday 2—3

Friday 11—12 at 3⁰⁰

と眼紙をした切で閉鎖されて居た、然かし、ウオール、フアンガー教授は尙若い教授ながら、至極懇切でスミス氏に代て熱心案内の勞をとられ、校内のみでなく、地學協會迄も案内して下した、校内では一階下に在る圖書館を觀る、稍廣大な室で、室内は圖書棚並に閱覽所に別れて居る、地理部を一覽する、極く普通な參考書のみで、殊に英書のみに限られて居るには、聊か異様に感じた、蓋、單なる學生の讀書室で、特種の研究は圖書館を利用するものらしい。

スミス教授は、先年（一九二六）日本支那方面漫遊中であつたが、折よく既に歸任して居られる事、並に來校時目もわかつたから、フライデルフアイア、ワシントン方面の視察をすま

せ、再訪問する、丁度御講義中であつたのを暫く待ち、漸く面會する事が出来た獨逸風に能く肥つた丈の高い、品のよい方で、極く快活に應接され、日本訪問の話もされて居た、日本では横濱、神戸の高商を視察された由、尙東京の上諏訪氏は心切な人であつた、宜しく傳へてくれとの傳言であつた、此處に記して同氏に謝し度いと思ふ、教授の近著や、其の他拜見、小出版物など頂戴して缺禮した。

本邦に在る時から、スミス氏の名は能く聞て居たので、定めし完備の研究室でももつて居られる事かと訪問して見た處歐洲とは異り、地理は僅に一學科として、ビジネス部に寄生して居るに止まり、特別の設備のないのは、少なからず悲感の念に打たれた、唯スミス教授に面會するを得たのを唯一の幸とせざるを得ないのみであつた。

紐育大學。此處では、地理學は Arts and pure Science の一學科として、經濟地理が置かれてあるのみで、別に地學研究の見るべきものもなく、全く地質學教室に同居して居る、教授には J. E. Woodman 教授が居る、地學の擔當者であるが、丁度汎太平洋學術會議出席の爲め、本邦に向て出達された後で、面會の榮を得なかつた、どんな設備が在るかと思つて來た紐育大學も意外の失望に終らざるを得なかつた。

ジョージ、ワシントン大學。十月七日、ワシントン府に遊び、ジョージ、ワシントン大學を訪ふ、市の西郊ホライトハ

ウスから數町西 G. Street, 221 Street に在る、ワシントン大學など申すから、定めし立派なものであらうと想像して行た處街路の北側に接して並んで居る、赤煉瓦の小さい御粗末な建物であるのを發見、意外の感に打たれた狭い入口に部門の表札がはられてある、いくら搜しても地學の表札を發見しない、學生に尋ねても一向御存じない、漸く植物學、動物學教室の隣りに Art and Science のラボラトリーを發見階下の圖書室で替ねて見る、老婦の一氏よく教へてくれた、階上の三十五號室が地質學教室で、地理も同室であるとの事であつた、念の爲め訪ねて見る、なる程三十五號室は在る、が室内は教授も居ず、數名の學生が談話して居るのみ、再質して見る、矢張り此處が地理の教室だと云ふ、單なる普通教室、周壁に御粗末な地質標本箱や地圖函、書棚等があり、幻燈器を一臺準備して居るだけで、研究室でも何でもない事は、其様子を觀て察することが出来た。

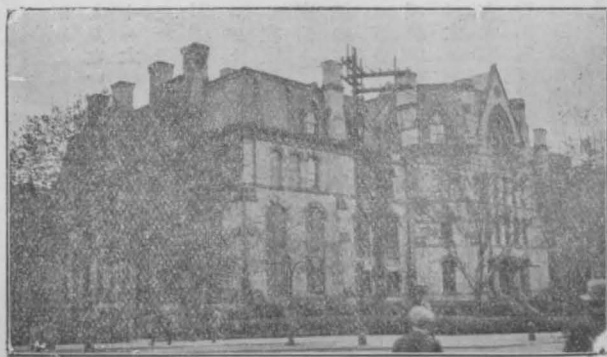
カーネギー、インスチテュート。ワシントン府ヒー通と十六通との角に位し、綺麗な落付のある建物で、階上は事務室並に研究室をなし、科學に關する標本並に寫眞類を陳列して居る、磁氣研究所を示す大地球儀を初め、天體寫眞等眼を引くもの少からず、地學に關係ある學科では、Geophysical Laboratory があると聞き行て見る、市の北郊ワイルトン通に在る、人家を離れた、綠濃き丘陵地に建ち、閑靜理想的の研究所の感がする、玄關を入ると、電燈裝置の地學關係寫眞、殊に

ハワイ火山を初め、火山地形に關する寫眞が多い、階上は一帯の研究室、廊下を中央に其の兩側に並んで居る Sorman 氏の案内で縦覽する重に化學的研究で、南阿の標本が多數集められて居た、一室には白髮の老學者が居た、H. Washington と云ふ方で、石器や土器等だ、古臭いものが集まつて居た Chemical element 分布の研究者と聞く、階下は磁氣研究室氣壓研究裝置も大規模に備えられ、寫眞室など自分にはわからぬ設備のみである、音に聞く大研究所、地理に關する研究も行はれて居るかと、遙々訪れて見たが云はゞ自分には少し縁の遠いもの計で遺憾ながら大畧にして缺禮する。

此の他、ワシントン府には Harvard University と云ふのが有る、市の北郊に位し、研究所からは少し隔て居るが行て見る、却々廣大な校庭老樹蔭暗き處多數の教室が散在して居る相當な大學である、然かし學生と云ひ事務員と云ひ、何れも黒い色の方計である、事務室で一覽を乞ふ、一教授と思しき人が懇切に説明してくれた、懇切は結構であるが、不幸にも地理學は置かれて居ない。經濟商業學、地質學は立派に獨立して設置されて居るが、地理は一科としても存在して居ない。ジョンホプキン大學。此處では地質學科の他に、地理科が置かれて居る、然かし地質學は前述の如く、地質調査所、機械工學と共に、廣大な建物内に設置研究室も完備して居るに反し、地理學は僅に一學科として講義されて居るだけで、特別の研究室と云ふものもなく、講義の如きも地質學講義室の一

北米合衆國に於ける地理學界

學大シキブホシヨジ (圖二第))



つなる第二〇二號室、即ち經濟地質學教室が之に充てられて居り、教授も地質學部長で地質調査所長たる E. B. Matews 教授が之を命、自然事項と商工業との關係、並に世界各地の商品と商業關係の研究と云ふ題下に一週三時間づゝ講じて居るのみで、研究報告の如きも、地質の方は立派なものが出て居るけれども地理の方は、未だ其の運に至て居らない、尙大學の地學も、云はゞ御客分の状態たるを免れない。

ペンシルバニア大學。フィラデルフィア府に在る、市の西郊に位し、校庭には赤煉瓦の英國式の建物が幾つも並んで居る、其の一つなる Wharton Hall は商工業關係學の教室で

of Finance and Commerce と稱して居る、地理學は其の一學科として置かれ、Department of Geography and Industry がある、最

階上の南部が之に充てられ、事務室教授室並に圖書室等を備えて居る、

建物が古いので、各室共に狹隘暗黒恰もスコットランドのグラスゴー大學に見るが如き感があり、地學の研究室としては不適當の思がした、事務室に對する、三一〇號室は教授室で、僅に二間に三間位の小室、地學擔當の Frank E.

ンチングトン氏と共に Business Geography の著者であり經濟地理を講じて居る、要するに、此處でも地理は、獨立した學科ではなくして、一學科として講ぜられて居るに過ぎない、フィラデルフィア府には、此他に地理關係の建物として大學附屬の博物館、並に商業博物館がある、商業博物館は歐洲にも見ない大規模なもので、よく利用されて居る。

エール大學。此の大學には人文地學で知らるゝハンチングトン氏が居るので、希望を囑して行て見る、前述の地質學教室の玄關を入ると、直ぐ左側は應接室、之に續いて居るのがハンチングトン氏の室であつた、女事務員を経て案内を乞ふと折よく在室で、面會して下した、御所用中であつたからもう一度伺ふ、氏は其間に自分の面會を欲して居た米國に於ける地學の大家諸氏に、紹介狀を作製して置いて下した、時間を浪費せざる氏のやり方には、少なからず感服した、氏の案内を得て學内を縦覽する教室の向側に在る學生會館で御馳走になる、大規模な食堂、高い天井に兩壁の諸大家油繪像等、英國の古大學を彷彿せしめる、植民當初故郷の風を學んで造たものであらう、極く經濟的に、然かも極くたつぷりと、美味に食べられる處は其の特徴である、Sheffield Scientific School の研究室を縦覽の上、公園に出て記念に撮影する、挿畫は其の記念にとつた同氏である此處に大學附屬の博物館が有る、同氏に別れゆつくり縦覽、再び教室に歸る、四時からば學會で同氏の地理に關する講演があり、又二三日後に

ルーホントルヲ (圖三第)



Williams 氏並に A. H. Williams 氏の控室である、F. E. Williams 氏に面會する、五十前後と思はるゝ、凛々しい顔付の好紳士懇切に談話され、教室内をも案内してくれた、氏はハ

は研究旅行もある由、聴講参加を許可されて居たが、休暇を得ず遺憾であつた。

ハンチングトン氏は、米人に似ぬ小柄な髭もなく、眼も細



ハ ン チ ン ト ン 氏

く、一見歐米人とも思へぬ風采、常に手を耳にして話さるゝ處を見れば、或は耳に異狀を有せらるゝにや、風姿は兎も角く、却々の懇切には感謝の他なかつた、氏は夫の甲南高等學校教授伏見義夫學士が譯した *Principles of Human Geo-*

graphyの著者で、又ペンシルバニア大學教授 E. E. Williams 氏と共に *Business Geography* を著し、その他 *Huntington Geography Series* として *Commercial and Industrial Geography* の著もあり、尚ワシントン府のカーネギー研究所出版の *The Climatic Factor as illustrated in Arid America* (1914)、並にエール大學の *Research Associate in Geography* から *Earth and Sun* (1923); *Climatic changes; Their Nature and Causes; Civilization and Climate; World-Power and Evolution* を出す等其の著甚だ多い、ハンチングトン氏が人文方面の地學者として我が國でも能く知られ英國にても氏の地理方法論は重んぜられて居るにも拘はらず同氏の居るエール大學には、地學の獨立したものがなく、氏の如き僅に地質學部の一助教授として *Research Associate in Geography* の事務に従事し *Geographical review* の編纂をやつて居るに過ぎないのは、異様の感に打たれざるを得なかつた。